

第63期 株主通信

2024年4月1日～2025年3月31日

RHEON®

レオン自動機株式会社

RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.

証券コード 6272



トップメッセージ



大手メーカーを中心に需要が堅調に推移。 アメリカ市場も引き続き好調に推移し 増収増益を達成。

株主の皆様には、日頃より、当社グループの事業活動・企業活動に格別のご理解・ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループは、創業の精神「存在理由のある企業たらん」を忘れることなく、食品成形技術のパイオニアとして、世界の食のニーズにお応えするとともに、食文化の継承と発展に貢献しております。

ここに第63期(2025年3月期)の営業の状況をご報告するとともに、今後の取り組みについてご説明いたします。



代表取締役社長

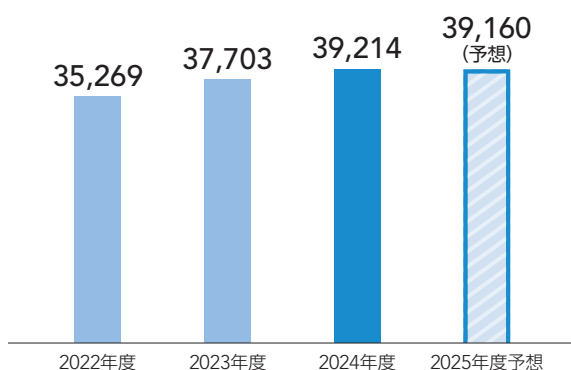
小 坂 幹 央

Q 当期(2025年3月期)の業績の概要をお聞かせください。

A 引き続き国内大手メーカーの設備投資や好調なアメリカ市場が牽引し、増収増益となりました。

当期の状況につきましては、国内では人手不足や食品衛生への意識の高まりによる機械の導入が進んでおり、インバウンドの増加に伴い機械の導入も拡大しています。こういった要因により、前期に続き大手製パン・製菓メーカーを中心に需要が堅調に推移しました。

売上高の推移



アメリカ市場では健康志向、本物志向の高まりを受けて「アルチザンブレッド生産ライン」の販売が好調となり、ヨーロッパではEU主要国以外にも販路を拡大したことで、一時停滞していた「ペストリー生産ライン」の販売が再び活況を呈しています。アジア市場では、中国経済の低迷が影響を及ぼしましたが、台湾や東南アジアの地域では計画通りの販売が実現しました。

これらの要因により、当社グループの連結業績は、前期に比べて増収増益を達成しました。

Q 当期の取り組みやトピックスをお聞かせください。

A 食品加工機械・食品製造販売ともに、積極的に事業を推進しました。

食品加工機械製造販売事業では、ヨーロッパ市場で注目を集めている「ペストリー生産ライン」をさらに改良し、一層の省力化と高品質化、そして食品ロスの低減に取り組みました。包あん機は、和洋菓子市場だけでなく、調理食品市場への応用も進めたことで、国内のハンバーグ製造現場では、当社の機械が広く使われるようになりました。今後は海外、特にヨーロッパの食肉市場の需要に注力していく

方針です。一方、食品製造販売事業では、アメリカのオレンジベーカーリーにおいて、製品の解凍から発酵、焼成までの工程時間を短縮する製法の研究を進め、生産性向上に努めています。

オレンジベーカーリーはパンの製造・販売の他に、当社の食品加工機械の開発において重要な役割を果たす実験工場としての役割も担っています。

Q 中期経営計画についてお聞かせください。

A スマートファクトリーを見据えた「スマートライン」の開発を進めています。

中期経営計画(2023～2027年度)につきましては、省人・省力化に向けた設備投資需要や円安の影響により売上が増加したものの、足元の経営環境は不透明感を増しており、新機種開発と標準化推進の重要性が高まっている状況です。

1つ目の新機種開発につきましては、長期10年ビジョンに掲げた「スマートファクトリー」を実現するため、前段階であるスマートライン化に引き続き注力してまいります。この「スマートファクトリー」とは、IoTなどのデジタル技術を活用し、工場全体を一元管理することで、生産性の向上、品質の改善、コスト削減、納期短縮など生産の最適化を実現する次世代型の工場です。このシステム構築を目指すことで、サステナブルな食品産業の実現に貢献できると考えております。

こうした食品生産のスマート化を生産ラインの段階で実現するのがスマートラインで、ヨーロッパで好評の「ペストリー生産ライン」にもこのスマートラインの技術が活用されています。

2つ目の標準化推進につきましては、標準機を中心とした販売を強化し、お客様の独自仕様にも標準機をベースに対応することで、売上比率を向上させ、安定した利益を確保していきます。

Q 今後(2026年3月期)の展望をお聞かせください。

A 引き続き見込まれる設備投資需要に積極的に対応していきます。

2025年4月時点での受注は過去最高であり、今後も食品業界では人手不足や原材料などのコスト高

に対応するため、さらなる高品質化や差別化に向けた設備投資が見込まれます。

こうした需要に積極的に対応していきながら、スマートファクトリーを見据えたスマートラインの開発に引き続き注力していくとともに、標準機の売上比率も高めていきます。

Q 最後に、株主様へのメッセージをお願いします。

A 開発メーカーとして研究開発をさらに強化し、企業価値・株主価値の増大を目指します。

当社の食品加工機械は、海外への出荷増加に伴い、国内と海外の出荷実績の割合は現在半々になっています。特に伝統ある食品機械メーカーが数多く存在するアメリカやヨーロッパで、当社の機械を必要とされるお客様が増えてきたことは大変光栄なことです。

当社は独自のレオロジー技術を活用してつくられた食品を、より多くの国々の方たちに楽しんでもらえるよう、新機種の開発やスマートファクトリーの構築を目指した開発に取り組んでまいります。他社にはない独自の機械を数多く開発していくことで、収益力の向上を図り、研究開発の強化を通じて企業価値と株主価値の増大を目指してまいります。

なお、当期末の配当金は、1株当たり23円とさせていただきます。これにより1株当たりの年間配当金は、中間配当金21円と合わせて44円となりました。

株主の皆様におかれましては、引き続きのご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。



海外展示会情報



ズードバック

Südback 2024

シュツットガルト・ドイツ
2024年10月26日～29日



この展示会は、ドイツ最大級の製パン・製菓見本市として知られており、今回は国内外からおよそ3万5千人が来場しました。

当社は、小型製パン機「ツインデバイダー（VX222）」を中心に、製パン・製菓関連の4ラインを展示・実演。なかでも最新の「V4-ドウフィーダー」をヘッドにしたアルチザンブレッドラインは、クオリティーの高い実演と製品で、お客様から大きな反応と高い関心が寄せられました。当社機と、当社機で生産される食品の品質の高さは、欧州でも広く認められています。今後も、当社独自の技術力を強化し、お客様に安心してご利用いただける高性能・高品質な食品機械の開発を行ってまいります。



海外市場情報



当社子会社であるオレンジベーカーリーの駐在員から、アメリカにおけるパン市場の最新情報をお届けします。現地のトレンドや消費者ニーズをお伝えするとともに、カリフォルニア州のスーパーマーケットで実際に販売されている、オレンジベーカーリーの製品の一部をご紹介します。



誰でも簡単に焼ける 「Ready to Bake」製品の需要が高まる

「Ready to Bake」製品は、店舗での発酵（ホイロ）工程を省略でき、誰でも簡単に安定した品質の製品を焼けることから、需要が増加しています。この背景には、まず人手不足があり、さらに焼成技術を持つスタッフが不足していることが挙げられます。成形後冷凍の製品を仕入れている店舗では、発酵や焼成の技術によって製品の品質にばらつきが生じることがあり、その結果、廃棄が発生してしまうこともあるようです。また、販売予想に基づいて早朝に一気に焼成をすることが多く、その結果、予想と異なる売れ行きの場合に柔軟に対応することが難しいといった声もあります。「Ready to Bake」製品は、成形後冷凍の製品に比べて単価が高いことが一般的ですが、人件費や廃棄量を削減できるため、総合的なコストやサステナビリティの面でのメリットも大きいと判断する店舗も増えてきています。



小さいサイズ、少量パックの 食べきりサイズも需要増加中

アメリカンサイズと言われるように大きなサイズの製品や大量パックの製品も、もちろん人気・需要がありますが、店頭に置かれている製品の傾向を見ると小さいサイズの製品・少量パックの需要が増えています。

その背景には

- ・子どもや高齢者が食べきれるサイズの需要
- ・職場や学校での間食にちょうど良いサイズの需要
- ・一度に何種類かの味・製品を試したいという需要

などがあるようです。オレンジベーカーリーの製品も、従来の半分や3分の1にカットされてパックに入れて提供されている製品も見受けられるようになりました。また店舗によっては、少量（1～2個入り）のパックも販売されており上記のニーズの高まりが反映されています。

例えば、小さなサイズの製品を数種類組み合わせたアソートセットが、パーティーやホリデーシーズンで人気



現地のスーパーマーケットで販売されているオレンジベーカーリーの製品



シナモンロール
-Cinnamon Roll-

アメリカでは、シナモンロールは定番の製品として広く親しまれています。多くの店舗では、6～8個のロールを型に並べて焼き上げ、焼き上がった後にアイシングをたっぷりかけて販売しています。家族や友人とシェアしながら楽しむのにぴったりな商品なので、特にホリデーシーズンには多くの店で見かけることができます。



ベアクロー
-Bear Claw-

熊の爪の形に似ていることからその名前がついています。フィリングにはラズベリーやアップルなど様々な種類がありますが、特に人気があるのはアーモンドフィリング入りのベアクローです。一部の店舗では、写真のように3等分にカットし食べやすい小さなサイズでパックし、提供している場合もあります。



チョコレートクロワッサン
-Chocolate Croissant-

チョコレートチップが中に入ったフィルドタイプのクロワッサンです。チョコレートチップのザクザクとした食感がアクセントとなった人気の製品となります。この製品も小さいサイズの需要から、半分にカットしたものをパックし提供している店舗も見受けられます。



ペストリーバイト
-Pastry Bites-

ひとくちサイズのペストリーバイトは、サクサクのパイ生地とフルーツフィリングが絶妙に組み合わさったロングセラー製品です。店舗によっては、複数のフレーバー（例：アップル、ラズベリー、ブルーベリー）を一度に試したいというニーズに応え、異なるフレーバーを一つのパックに詰めたアソートセットを販売しているところもあります。



ターンオーバー
-Turnover-

オレンジベーカーリーの定番製品です。四角いパイ生地の上にフィリングを吐出し、三角に折って砂糖を表面にまぶしています。アメリカではほとんどのスーパーで置いている製品で、特に人気のあるフィリングは、アップルとチェリーです。



設備投資情報



ロボットストレージシステム

オートストア

「Auto Store」を導入

高密度の自動倉庫で、省スペース化と生産性向上へ

当社の生産拠点である上河内工場（宇都宮市）にロボットストレージシステム「Auto Store」を導入しました。2025年4月に完成し、5月より順次稼働を開始しています。システムの概要について、生産部門担当の常務執行役員よりQ&A形式でご紹介します。

常務執行役員
生産本部長

堺 義孝



Q Auto Storeとは、どのようなもの？

複数のロボットがビン（専用コンテナ）を出し入れする、自動倉庫システムです。このシステムでは、格子状に組まれたグリッド上面を複数のロボットが個々に動き、グリッド内に格納されたビンの入出庫作業を迅速に行います。ロボットが作業員の手元まで荷物を搬送するので、人が動く必要はありません。また、ビンを直接積み上げて高密度に保管するので、床面積を有効活用することができます。SAP（総合基幹システム）と連携して部品の入出庫をデータ管理できるのも特徴です。

Q Auto Storeは、どれくらいの大きさ？

当社のものは、L17×W23×H5（m）で、有効床面積は280㎡です。従来の部品保管スペースが850㎡でしたので、約3分の1の床面積に縮小することができました。格納されるビンの数は10,400箱となり、12,000アイテムの収納を予定しています。

Q Auto Storeを導入する目的は？

主な導入目的は、三つあります。

目的1. 作業環境の改善です。従来の方法では、広大な部品の保管スペースを移動しながら作業を行う必要があり、特に近年の猛暑対策が難しかったのですが、今後はロボットが作業を行うため、人は定点で作業することができます。空調の設置などにより、快適な職場環境へと改善してまいります。

目的2. 保管スペースの削減です。機種や部品の種類が増えるにつれて、在庫部品も増加し、棚置き作業では高さを活用できないため、保管スペースに限界が生じていました。今後は高さを有効活用することで保管能力が向上し、自動化により作業効率も向上しますので、お客様への安定供給にも繋がります。

目的3. 作業の効率化です。作業員の歩行時間など、無駄とされる作業を削減し、作業効率を向上させ、省人化を目指してまいります。

近年、Eコマースの発展に伴い物流設備のDX化が進んでおり、ロボットを活用した設備が実用的になっています。当社におきましても、これまで知識や経験により属人化していた部品入出庫作業をDX化することで、今後は誰でも正確かつ迅速に作業ができる環境を構築してまいります。

■ 常務執行役員の堺より 株主様へのメッセージ

当社は、お客様のニーズに合わせて様々な機械を提供しており、それに伴いパーツの種類も多様化しています。お客様がご利用の機械が故障した際や、新製品を生産する際に必要なパーツを迅速に提供するため、生産現場もDX化を推進してまいります。今後も、お客様により一層信頼いただける生産体制を構築し、企業価値向上に邁進してまいります。

従業員持株会向け「譲渡制限付株式インセンティブ制度」を導入 人的資本経営を強化し、従業員エンゲージメント向上へ

当社は人的資本経営を強化しており、このたび、従業員持株会に加入する従業員を対象に福利厚生の増進策として、「譲渡制限付株式インセンティブ制度」（以下「本制度」といいます。）を導入しました。本制度導入にあたり、2024年7月末からプロモーション期間を設けて、対象者に対する社内説明会の開催等を行いました。その結果、プロモーション終了時の2024年9月末時点で加入率は89.4%、拋出率は88.9%となり、本制度導入前と比較し、加入率、拋出率ともに大きく伸びました。なお、東京証券取引所が2025年2月に公表した2023年度の「従業員の持株会加入状況」は37.82%であり、当社の加入率は平均を大きく上回る結果となりました。

当社は、福利厚生のさらなる充実により、従業員のモチベーション、エンゲージメントの向上を図るとともに、一人ひとりの経営参画意識を図り、当社の持続的な成長と企業価値の向上に努めてまいります。

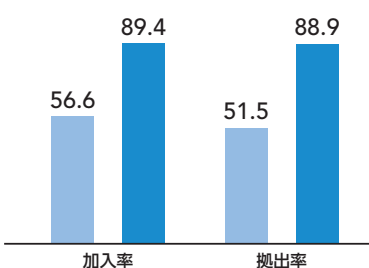
本制度導入の 主な目的

- ・持株会を通じ当社が発行または処分する当社普通株式を譲渡制限付株式として取得する機会を創出することで、従業員の財産形成の一助とすること
- ・当社の企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを従業員に与えるとともに、当社の株主様との一層の価値共有を進めること

レオン自動機従業員持株会 加入率と拋出率

[%]

■ 2024年6月末時点（本制度導入前）
■ 2024年9月末時点（プロモーション終了時）

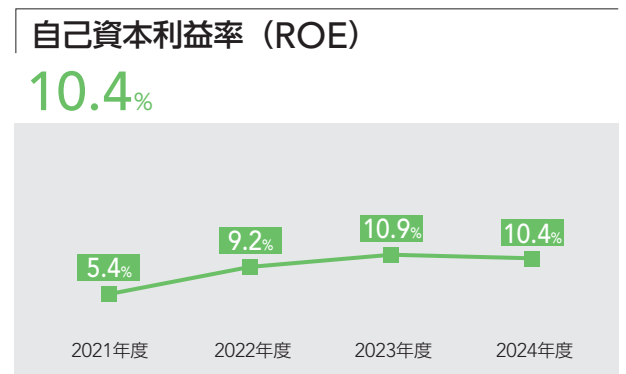
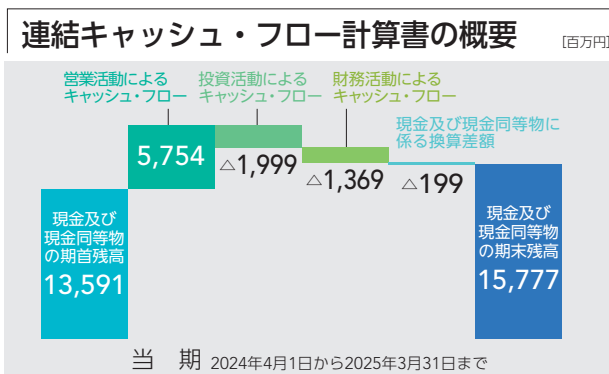
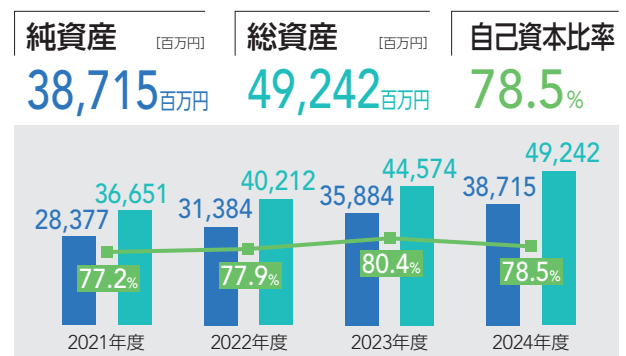
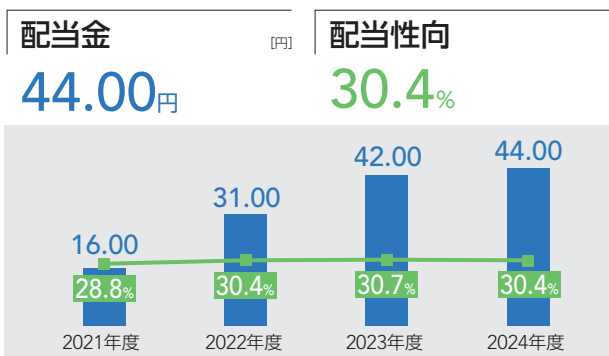
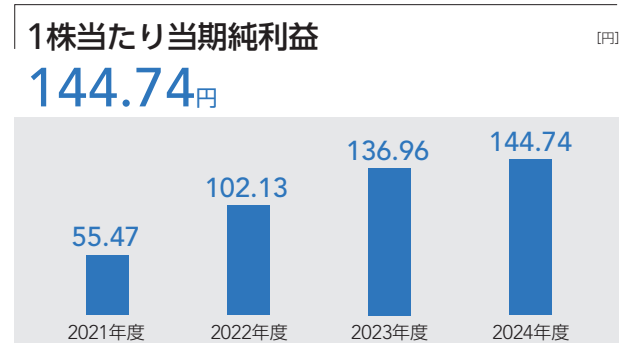
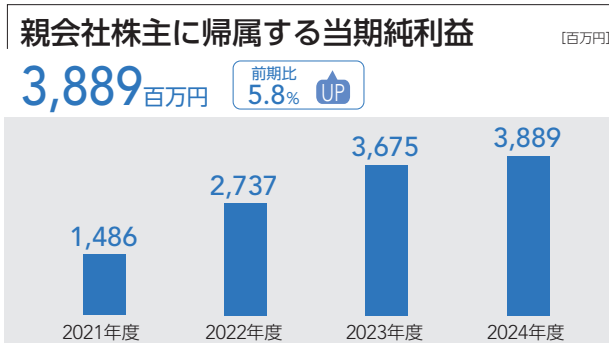
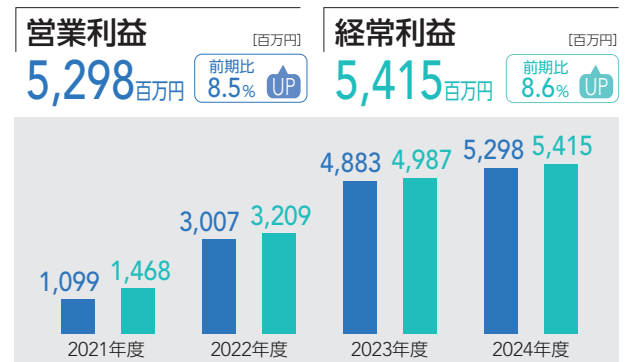
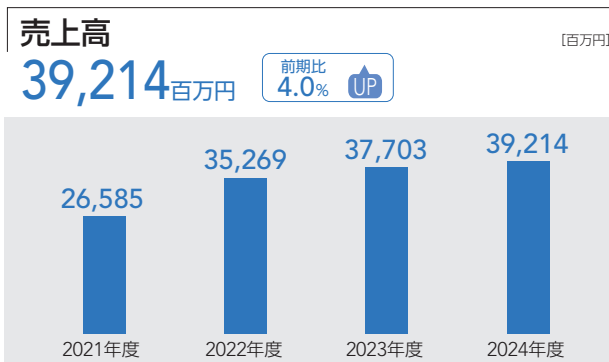




国内経済におきましては、賃上げを実施した企業が多く、雇用や所得環境が改善し景気は緩やかな回復が見られました。為替相場は不安定な状況にあり、また物価の上昇やエネルギー価格の高騰が続き、依然として先行き不透明な状況が続いております。

海外経済におきましては、米国では好調な企業業績と物価上昇率の鈍化により、経済は堅調に推移しておりましたが、政権交代による政策転換が米国内経済に与える影響が見通し困難な状況です。欧州ではインフレ率の低下による消費回復の傾向が見られるものの、地域紛争の長期化の地政学リスクが高く、引き続き低成長が続く見込みです。中国でも不動産市況や消費の低迷から経済成長率は押し下げられ、米中対立激化が懸念されることから、景気回復ペースは鈍化すると見られます。

このような状況の下で、当連結会計年度における売上高は39,214百万円(前期比4.0%増)、営業利益は5,298百万円(前期比8.5%増)、経常利益は5,415百万円(前期比8.6%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は3,889百万円(前期比5.8%増)となりました。



セグメント概況



セグメント別売上高および売上高の推移

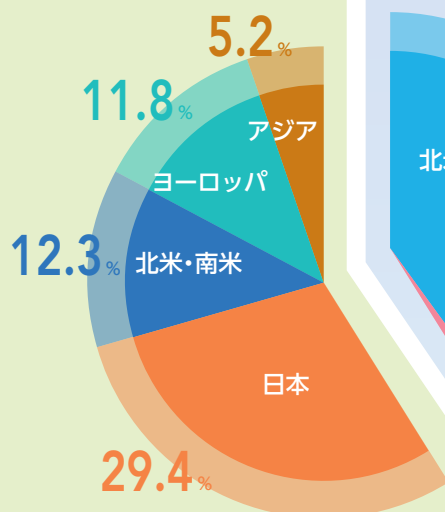
食品加工機械製造販売事業

23,028百万円

前期比 101.9% 構成比 58.7%

POINT!

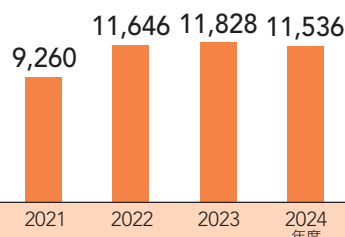
- 日本では食品成形機、製パンラインなどの販売が減少
- アメリカでは製パンラインなどの販売が増加
- アジアでは製パンラインの販売が減少



日本

[百万円]

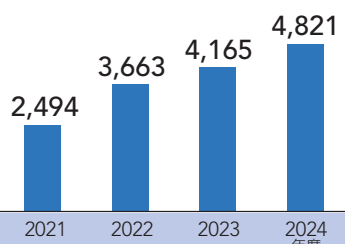
売上高 11,536百万円
セグメント利益 4,380百万円



北米・南米

[百万円]

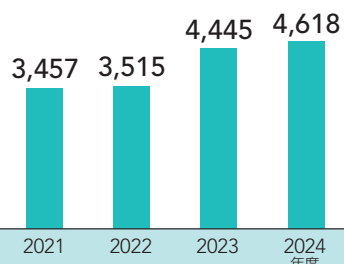
売上高 4,821百万円
セグメント利益 375百万円



ヨーロッパ

[百万円]

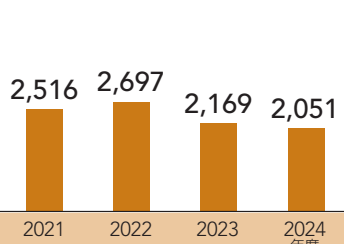
売上高 4,618百万円
セグメント利益 390百万円



アジア

[百万円]

売上高 2,051百万円
セグメント利益 503百万円



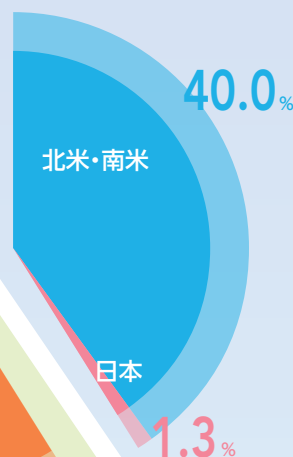
食品製造販売事業

16,186百万円

前期比 107.2% 構成比 41.3%

POINT!

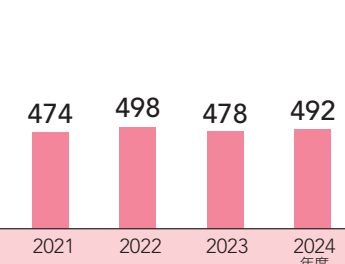
- 日本のホシノ天然酵母パン種では、販路拡大や製造工程の見直しなどにより、増収増益



日本

[百万円]

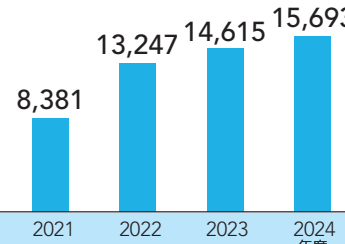
売上高 492百万円
セグメント利益 68百万円



北米・南米

[百万円]

売上高 15,693百万円
セグメント利益 1,796百万円



会社概要

商号 レオン自動機株式会社
RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.
本社 栃木県宇都宮市野沢町2番地3
設立 1963(昭和38)年3月15日
資本金 7,351,750,000円
従業員 675名

(注) 従業員には国内子会社および海外子会社への出向者は含まれておりません。

役員 (2025年6月25日現在)

代表取締役社長 小林 幹央
取締役常務執行役員 大貫 和茂
取締役常務執行役員 細谷 昌樹
取締役常務執行役員 菊地 芳幸
取締役 平原 興
取締役 赤塚 孝江
常勤監査役 秋田 規男
監査役 横山 不二夫
監査役 水上 恵理

(注) 1. 取締役平原興および取締役赤塚孝江は、社外取締役であります。
2. 監査役横山不二夫および監査役水上恵理は、社外監査役であります。
3. 取締役平原興、取締役赤塚孝江および監査役横山不二夫、監査役水上恵理は、東京証券取引所の定める独立役員であります。

事業所

上河内工場 宇都宮市中里町715番地1
東京営業所 江東区新砂1丁目6番35号
JMFビル東陽町02 1階
札幌出張所 札幌市白石区南郷通20丁目北1番37号
仙台出張所 仙台市泉区八乙女3丁目12番地の1
名古屋営業所 名古屋市名東区社台3丁目32番1号
大阪営業所 吹田市垂水町3丁目25番11号
岡山営業所 岡山市北区上中野2丁目12番18号
福岡営業所 福岡市博多区東那珂1丁目13番15号
台湾支店 台北市内湖區新湖一路118號5樓 台湾
上海駐在員 中華人民共和国上海市長寧区虹橋路1438号
事務所 古北国際財富中心2期5階 503-30室

関連会社

■ レオンUSA (アメリカ) ■ レオンヨーロッパ (ドイツ)
■ 株式会社レオンアルミ (日本) ■ オレンジベーカーリー (アメリカ)
■ 有限会社ホシノ天然酵母パン種 (日本)

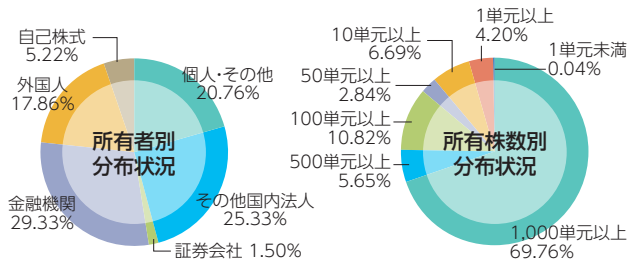
株式の状況

発行可能株式総数 42,800,000株
発行済株式総数 28,392,000株
株主数 8,057名

大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
公益財団法人レオロジー記念財団	3,030	11.3
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,894	10.8
ラム商事有限会社	1,703	6.3
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,230	4.6
株式会社足利銀行	1,160	4.3
レオン自動機従業員持株会	817	3.0
JP MORGAN CHASE BANK 380684	616	2.3
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505301	491	1.8
株式会社栃木銀行	480	1.8
双葉企画有限会社	478	1.8

※ 自己株式1,480,657株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 Tel. 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う(ただし、電子公告によることのできない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

【お知らせ】

1. ご注意
- (1) 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (2) 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
- (3) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。
2. 配当金計算書について
- 配当金の口座振込をご指定の方と同様に、「配当金領収証」により配当金をお受取になれる株主様宛にも「配当金計算書」を同封いたしております。お受取になった配当金額がご確認いただけます。

レオン自動機株式会社

RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.

〒320-0071 栃木県宇都宮市野沢町2番地3 TEL.028-665-1111
<https://www.rheon.com/>



株主さまアンケート

① 下記URLにアクセス
② アクセスコード入力後にアンケートサイトが表示
<https://www.e-kabunushi.com>

アクセスコード 6272

以下の方法でもアンケートにアクセスできます

ご回答いただいた方の中から抽選で
薄謝(QUOカードPay500円)を進呈させていただきます
アンケート実施期間は、
本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です

株主の皆さまにおかれましては、何卒ご理解をいただきますとともに
今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます

本アンケートは、株式会社リンクソシールの提供する
「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします
<https://www.link-ss.co.jp/>
アンケートのお問い合わせ先:「e-株主リサーチ事務局」 MAIL info@e-kabunushi.com